

事業計画書

1. 申請する法人について											
法人名	認定特定非営利活動法人 親子ふれあい教育研究所										
法人の設立登記日	2012	年	7	月	4	日					
法人設立前の団体の設立日	2011	年	4	月	1	日 ※NPO法人設立前に任意団体等で活動実績がある場合は記載する					
ホームページ・SNS	ホームページ	ofkk.or.jp			Facebook	facebook.com/ofkknpo/?locale=ja_JP					
	X (旧Twitter)	なし			YouTube	なし					
	Instagram	ofkk fureai			その他	https://ofkk4657ofkk.blogspot.com/					
活動歴・これまでの活動実績 <各活動90字以内>	活動①	無料の「こころの相談室」を初年度より開設している。就学前の幼児を主に最近是不登校児の相談が増えている。担当は、学校心理士、保健師、保育士、医師が連携。									
	活動②	絵本作家のモリノサカナと「こころの相談室」とタイアップして虐待防止の「絵本ライブ」と「1日こころの相談室」を開催した。その後も時折開催している。									
	活動③	子育てに悩む更年期世代の母親に特化した心理・医療的側面からのセミナー及び相談。子供食堂利用者・障がい児や不登校児をかかえる母親(父親)が対象。									
	活動④	多世代交流の一環で「コロッケカフェふれあい」を開設。コロナ期間は休業。4年前よりカフェを利用して「子ども食堂」開設。学習支援や各種相談に乗っている。									
	活動⑤	子ども達との会話で「体験格差」を痛感した。一助になればと始めたのが「こどもわくわく体験」です。認定NPO法人を目指したのもそのためです。									
助成金等の交付実績 ※ 2023年4月～2026年3月に交付された助成金を記載 ※ 5件以上ある場合は、直近のものから5件を記載		助成金等名称		交付者		交付年月		交付額			
	助成金等①	医療生協さいたま社会貢献に係る助成金		医療生協さいたま生活協同組合		2023	年	4	月	10万	円
	助成金等②	コープ未来財団社会貢献活動助成金		生活協同組合コープみらい		2024	年	2	月	20万	円
	助成金等③	こどもの未来応援基金		独立行政法人福祉医療機構		2024	年	4	月	100万	円
	助成金等④						年		月		円
	助成金等⑤						年		月		円
申請する事業に従事する社員		氏名			役割						
	社員①	藤野信行			代表理事(当事業の統括責任者)						
	社員②	藤井康司			広報・記録責任者						
	社員③	小山恵美子			企画運営責任者						
	社員④	淵野彩子			企画運営						
	社員⑤	米野暖那			SNS担当						
	その他従事社員数	10			人				当法人は、無給の正会員と賛助会員で構成されており、賛助会員の一部に交通費を支給している。		
	従事社員総数	15			人						

2. 申請する事業について

事業名	「わくわく体験」を通じて行う学生ボランティア育成の為の新たな試み	事業区分	ステップアップ支援事業	事業分野	こどもまんなか
事業対象	埼玉県内の大学に在籍する学生	対象地域	埼玉県全域	事業実施期間	2026/7/1 ~ 2027/2/28

解決したい地域課題及びその現状<300字程度>

子供食堂を利用する小学生から塾や旅行に行けない為に友達の輪に入れないと聞かされました。外食したのは半年前という子どもが1人いました。保護者の経済格差からくる子どもの「体験格差」は深刻です。習い事、旅行などの体験は、やり抜く力、自制心、協調性、創造性などを育む土台となります。子ども達に少しでもチャンスを与えたい。楽しい思い出作りの手伝いをしたいと始めたのが「わくわく体験」です。数年間のモデル事業の中で、指示をしないと動けない子どもが複数いました。聞くと、学校以外の体験が少なく自信が持てないという。彼らに体験活動の機会を与えたいと強く感じました。

上記の地域課題の解決に向けた事業の概要<300字程度>

子ども食堂を利用する保護者の中には、与えられることが当然との人がいます。子どもは親から感化されます。負の連鎖に繋がります。子ども達には「わくわく体験」を通じて、与えられる喜びより与える喜びを知って欲しい。よりよく生きる為のチャレンジ精神を身につけて欲しい。「わくわく体験」では、単に観て聴いて楽しかったよりも心に残る「参加型・体験型」の催しやモノづくり体験を行います。わくわく体験を通じて「ボランティア精神」を身につけて欲しい。当事業を行う為に若者を中心とした「わくわく体験ボランティアネットワーク」を大学や高校と連携して作ります。藤野が埼玉県学校心理士の会の顧問です。協力を求めていきたい。

事業効果（※事業の効果はどのように県内広域に及ぶか、単一市町村内で行う事業の場合は、事業の効果が他の地域にどのように裨益するのか具体的に記載）<300字程度>

大学生、高校生、20代の社会人を中心とした「若者ボランティアネットワーク」を立ち上げます。手始めに県内の大学の（ボランティアサークル）に協力を求めます。県内には大学42校、短大11校があります。又、県内全域にネットワークを広げるためには、子供支援サークル（NPO法人・一般社団）にサテライトとして協力を求めます。わくわく体験事業は、県内各地で年間に大小併せて8回程度開催します。一つの事業単位でボランティアを募集します。学生たちには1日参加のボランティアではなく、企画から運営まで事業に関わってもらいます。「わくわく体験」を通じて子どもと共にボランティア精神を学んで欲しい。

事業の発展性（これまでの取組を踏まえ、事業の自立的な運営や効果的な実施に向けてどのような工夫・改善を行うか具体的に記載）<300字程度>

私自身が長らく「ボランティア養成」にかかわってきました。単著に「ボランティアの為の福祉心理学」NHK出版があります。学生ボランティアに限らず単発の1日ボランティアが多い。その場限りですね。本来あるべきボランティアとは、何をやるかよりも、その場限りではなく継続して行うものです。わくわく体験は県内全域で開催します。一つの事業に企画から運営まで関わる。汗も流すが頭も使う。時にはぶつかっても良い。一つの事業「わくわく体験」をボランティアで作り上げる。ボランティアは手伝いであって手伝いではない。主催者側に立たなくては行けない。わくわく体験に参加する子ども達だけが「1日ボランティア」です。

事業の先駆性・モデル性（※事業の手法など他団体の取組のモデルとなり得るポイントを記載）<300字程度>

ボランティアサークルは数多くある。ネットワークも然りです。しかし、1事業（わくわく体験）に特化した若者中心の「ボランティアネットワーク」は無いのではないかと。わくわく体験は様々に行います。その一つで良い。企画から運営まで携わる。ボランティアの彼らが主役です。勿論彼らだけで行うわけではない。スタッフには、有資格者や経験豊富な人材が控えている。彼らがお膳立てすれば、単なるお手伝いで済む。それでは意味がない。将来、自身がボランティア活動のリーダーになって欲しい。その為の「実践型のボランティア育成講座」である。

対象地域や事業規模の拡大（※ステップアップ支援事業のみ、これまでの事業から具体的にどのように拡大させるのか具体的に記載）<300字程度>

①3年間、年間5回程度モデル事業を実施してきた。そこでの結論が、受け身ではなく能動的な内容と方法で取り組むです。実現するにはボランティアの存在が絶対です。（わくわく体験事業）に特化した若者中心の「ボランティアネットワーク」づくり構想が生まれました。ネットワークは県内全域に広がります。わくわく体験に企画から運営まで関わるボランティアを育成します。大人が講師だけではなく、大学生や高校生が講師になる「ボランティア講習会」もネットで企画します。その場合、受講生は年齢を問わずです。ネットを通じて多くの若者にボランティアのすばらしさを伝えたい。実践場所は、もちろん「わくわく体験」です。

—

3. 申請事業の具体的な取組内容

取組①	取組名		新規/拡充/継続	実施時期	実施場所(市町村名)	実施場所(施設名等の名称)
	大学生を中心とした「わくわく体験ボランティアネットワーク」の構築		新規	7月 ~ 2月	オンライン	オンライン
	取組の目的<200字程度>					
	日本の場合は、ボランティアの大半が高齢者です。諸外国の場合は、圧倒的に若者が多い。「わくわく体験」という実践の場を使って、多くの若者たちにボランティアのすばらしさと可能性を伝えたい。そのため の手段として「わくわく体験ボランティアネットワーク」をつくります。					
	取組の内容<100字程度>					
	県内の大学には必ず「ボランティアサークル」が存在する。彼らと連携して「わくわく体験ボランティアネットワーク」を構築していきたい。					
	対象者		事業実施回数	参加者数合計		事業収益見込額
	県内の大学に在籍する学生		月 2回 × 8か月 = 16回	各回 10名 × 16回 = 160名		1名あたり 0円 × 160名 = 0円
	従業員数	ボランティア数	連携団体数	連携する団体の名称(役割)		
	2名	10名	53団体	県内の大学及び短大が対象になる。ボランティアとして「わくわく体験」に様々な形で関わる。		

取組②	取組名		新規/拡充/継続	実施時期	実施場所(市町村名)	実施場所(施設名等の名称)
	ネットワークとわくわく体験を組み合わせた「ボランティア研修」		新規	9月 ~ 2月	さいたま市岩槻区	コミュニティセンター
	取組の目的<200字程度>					
	従来の研修は座学が多かったが、これからはSNSを活用しての研修になると思われる。しかし、実践の場は必要である。企画から運営まで「達成感」の得られる研修プログラムをつくりたい。主役は学生たちで ある。					
	取組の内容<100字程度>					
	誰でも気軽にネットでボランティア研修が受けられる。実践研修は「わくわく体験」の会場で行う。					
	対象者		事業実施回数	参加者数合計		事業収益見込額
	ボランティアに関心のある大学生・高校生		月 1回 × 6か月 = 6回	各回 12名 × 6回 = 72名		1名あたり 0円 × 72名 = 0円
	従業員数	ボランティア数	連携団体数	連携する団体の名称(役割)		
	2名	10名	53団体	県内の大学及び短大が対象になる。ボランティアとして「わくわく体験」に様々な形で関わる。		

取組③	取組名	新規/拡充/継続	実施時期	実施場所(市町村名)	実施場所(施設名等の名称)
	大学生を中心とした「わくわく体験」の実践	新規	1月 ~ 1月	さいたま市岩槻区	体育館アリーナ・岩槻文化公園
	取組の目的<200字程度>				
	研修の成果を試す良い機会として、学生ボランティアだけで企画、運営する「わくわく体験」の日を1日設けます。勿論、法人のスタッフも参加しますが口は出さない。事故につながる危険がある場合以外スタッフは保護者の立場です。学生だけで行います。リーダー研修会を当NPO法人にて複数回対面で実施します。				
	取組の内容<100字程度>				
	研修の成果を試す良い機会として、学生ボランティアだけで企画から運営までを行う「わくわく体験」の日が年間1日あります。				
	対象者	事業実施回数	参加者数合計	事業収益見込額	
子どもと保護者と学生	月 1回 × 1か月 = 1回	各回 50名 × 1回 = 50名	1名あたり	円 × 50名 = 0円	
従業員数	ボランティア数	連携団体数	連携する団体の名称(役割)		
2名	10名	団体	未定		

取組④	取組名	新規/拡充/継続	実施時期	実施場所(市町村名)	実施場所(施設名等の名称)
	小中学生を対象としたボランティア研修	新規	~	さいたま市岩槻区	児童センター
	取組の目的<200字程度>				
	「わくわく体験」に参加した子供たちに「ボランティア」の楽しさやすばらしさを知ってもらう。対象は、主に子ども食堂や放課後児童クラブを利用する子供たちになると思います。				
	取組の内容<100字程度>				
	「わくわく体験」に参加した子供たちが対象です。「わくわく体験」のビデオを見たり、ボランティアの大学生との交流会などを開きます。年に2回程度を予定します。				
	対象者	事業実施回数	参加者数合計	事業収益見込額	
子どもと大学生	月 1回 × 2か月 = 2回	各回 15名 × 2回 = 30名	1名あたり	0円 × 30名 = 円	
従業員数	ボランティア数	連携団体数	連携する団体の名称(役割)		
2名	5名	団体	未定		

取組⑤	取組名		新規/拡充/継続	実施時期	実施場所(市町村名)	実施場所(施設名等の名称)			
				~					
	取組の目的<200字程度>								
	取組の内容<100字程度>								
	対象者		事業実施回数		参加者数合計		事業収益見込額		
			月	回 ×	か月 = 0回	各回	名 × 0回 = 0名	1名あたり	円 × 0名 =
従業員数	ボランティア数	連携団体数	連携する団体の名称(役割)						
名	名	団体							

4.申請事業の目標

事業全体の目標				
No.	目標	目標値	測定方法	
1	県内の大学にある「ボランティアサークル」がネットワーク登録されること。	100%	登録数	
2	対象が「ボランティアサークル」の学生であり、構成人数は不明であるが一定の参加者は見込める。	100%	参加者数	
3	学生だけで企画・運営するのであり、研修の成果が出ることを期待する。	80%	アンケート	
4	研修というよりも遊びながら学ぶということです。学生の企画力に期待したい。	80%	アンケート	
5				
各取組の成果指標				
No.	取組名	目標	目標値	測定方法
取組①	大学生を中心とした「わくわく体験ボランティアネットワーク」の構築	53大学が参加する。	100%	登録数
取組②	ネットワークとわくわく体験を組み合わせた「ボランティア研修」	対象者が特定されており可能	100%	参加者数
取組③	大学生を中心とした「わくわく体験」の実践	多くを望まない。安全、安心が第一	80%	アンケート
取組④	小中学生を対象としたボランティア研修	楽しみながら学ぶ	80%	アンケート
取組⑤	0			

5. 申請事業の実施に向けた課題とその解決のための取組・工夫等

課題①	具体的な課題	若年層のボランティア人材の不足と確保
	課題解決のための取組・工夫	ボランティアの大半は高齢者である。若者のボランティアに対する関心度が低いのが悩みです。ボランティア活動は特別なことではない。身近にあり誰でも取り組めることを多くの若者に知って貰いたい。今回の試みは、ボランティアに関心のある大学生を対象に行う未来の指導者研修の意味合いがあります。
	目標	「わくわく体験」を通じて行う研修から新たなボランティアのリーダーが出ることを期待したい。
課題②	具体的な課題	体験格差のある児童への対応
	課題解決のための取組・工夫	親の経済格差により、ともすると卑屈になりがちな子ども達がいる。昔は皆が貧しかったためか「体験格差」を感じなかった。令和の今の方が「格差」が広がっているのかも知れない。子ども達が自信をもって学校生活を送れるために「わくわく体験」を企画、実行していきたい。
	目標	子ども達には、与えられる喜びより与える喜びを知って欲しい。よりよく生きる為のチャレンジ精神を身につけて欲しい。
課題③	具体的な課題	より有能なボランティア人材を育成する為に
	課題解決のための取組・工夫	今回の試みは、「わくわく体験」事業の企画から広報、運営まで関わることによって福祉事業の何たるかを学んで欲しい。又、ボランティアは単なる補助要員ではないことを知って欲しい。
	目標	

6. 3年後(2029年度)、法人がどのように成長しているか<300字以内>

「わくわく体験」を通じて、新たなボランティア人材の育成ができるのではないかと考えチャレンジしました。参加するだけの1日ボランティアではなく、年間複数回行う「わくわく体験」事業のひとつで良い。企画から広報、運営まで通して携わる「ボランティア研修」を試みたい。そのために「ボランティアサークル」に籍を置く大学生にターゲットを絞りました。彼らとは、企画会議、広報会議、運営会議など全てSNSを活用して行う。意見交換はZOOM会議で行う。その為のシステム作りから始めます。担当は、当法人のボランティアスタッフの大学生です。数年後には、彼らの中から次の世代を担うリーダーが出て来ることを期待します。

収支予算書

法人名 認定特定非営利活動法人 親子ふれあい教育研究所
 事業名 「わくわく体験」を通じて行う学生ボランティア育成の為の新たな試み

1. 収入の部				373,748			
項目				予算額(円)		積算内訳	
a.助成金交付申請額				373,000		※千円未満切り捨て/採択区分により補助率と交付額が変わる可能性があります	
b.自己資金				748		※自動計算	
c.事業実施による収入等				0			
(収入の内容)		(該当する事業)		金額1	単位	×	金額2 単位 × 金額3 単位
(収入の内容)		(該当する事業)		0	円	×	人 × 回
(収入の内容)		(該当する事業)		0		×	×
(収入の内容)		(該当する事業)		0		×	×
(収入の内容)		(該当する事業)		0		×	×
d.その他				0			
(収入の内容)		(該当する事業)		0		×	×
(収入の内容)		(該当する事業)		0		×	×
2. 支出の部				373,748			
項目				予算額(円)		積算内訳	
a.会場費				23,850			
(支出の内容)	岩槻文化公園体育館アリーナ	(該当する事業)	事業3	3,750	1,250 円	×	3 時間 ×
(支出の内容)	岩槻駅東口コミュニティセンター ミニホール	(該当する事業)	事業2	20,100	3,350 円	×	6 回 ×
(支出の内容)	児童センター	(該当する事業)	事業4	0		×	×
(支出の内容)		(該当する事業)		0		×	×
(支出の内容)		(該当する事業)		0		×	×
b.通信運搬費				6,450			
(支出の内容)	レターバック	(該当する事業)	共通経費	6,450	430 円	×	15 札 ×
(支出の内容)		(該当する事業)		0		×	×
(支出の内容)		(該当する事業)		0		×	×
(支出の内容)		(該当する事業)		0		×	×
(支出の内容)		(該当する事業)		0		×	×
c.旅費交通費				0			
(支出の内容)		(該当する事業)		0		×	×
(支出の内容)		(該当する事業)		0		×	×
(支出の内容)		(該当する事業)		0		×	×
(支出の内容)		(該当する事業)		0		×	×
(支出の内容)		(該当する事業)		0		×	×

d.消耗品費				54,868	金額1	単位	×	金額2	単位	×	金額3	単位	
(支出の内容)	わくわく体験食材費(バーベキュー)	(該当する事業)	事業3	25,000	500	円	×	50	人	×			
(支出の内容)	オンラインツール使用料(ZOOM会議)	(該当する事業)	事業1	14,868	2,124	円	×	7	月	×			
(支出の内容)	事務用品	(該当する事業)	共通経費	15,000	15,000	円	×			×			
(支出の内容)		(該当する事業)		0		円	×			×			
(支出の内容)		(該当する事業)		0		円	×			×			
e.備品費				0	金額1	単位	×	金額2	単位	×	金額3	単位	
(支出の内容)		(該当する事業)		0			×			×			
(支出の内容)		(該当する事業)		0			×			×			
(支出の内容)		(該当する事業)		0			×			×			
(支出の内容)		(該当する事業)		0			×			×			
(支出の内容)		(該当する事業)		0			×			×			
f.委託費				32,080	金額1	単位	×	金額2	単位	×	金額3	単位	
(支出の内容)	ポスター印刷	(該当する事業)	共通経費	4,980	4,980		×	1	回	×			
(支出の内容)	印刷製本費(わくわく体験ボランティアハンドブック)	(該当する事業)	事業3	21,720	21,720		×	1	回	×			
(支出の内容)	チラシ印刷	(該当する事業)	共通経費	5,380	2,690		×	2	回	×			
(支出の内容)		(該当する事業)		0			×			×			
(支出の内容)		(該当する事業)		0			×			×			
g.謝金				140,000	金額1	単位	×	金額2	単位	×	金額3	単位	
(支出の内容)	写真撮影及び編集	(該当する事業)	共通経費	30,000	10,000	円	×	3	回	×			
(支出の内容)	ビデオ撮影及び編集費	(該当する事業)	共通経費	30,000	10,000	円	×	3	回	×			
(支出の内容)	有償ボランティア(ネットワークシステム作業)	(該当する事業)	共通経費	80,000	5,000	円	×	4	週	×	4	月	
(支出の内容)		(該当する事業)		0			×			×			
(支出の内容)		(該当する事業)		0			×			×			
h.人件費				106,000	金額1	単位	×	金額2	単位	×	金額3	単位	
(支出の内容)	スタッフ人件費	(該当する事業)	共通経費	16,000	1,000	円	×	16	回	×		1	人
(支出の内容)	有償ボランティア交通費人件費	(該当する事業)	共通経費	90,000	1,000	円	×	90	人	×			
(支出の内容)		(該当する事業)		0			×			×			
(支出の内容)		(該当する事業)		0			×			×			
(支出の内容)		(該当する事業)		0			×			×			
i.その他				10,500	金額1	単位	×	金額2	単位	×	金額3	単位	
(支出の内容)	1日ボランティア保険	(該当する事業)		10,500	30	円	×	350	人	×			
(支出の内容)		(該当する事業)		0			×			×			
(支出の内容)		(該当する事業)		0			×			×			
(支出の内容)		(該当する事業)		0			×			×			